

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆうかり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市吉野町5400-1
記入者名 (管理者)	清水梨絵
記入日	平成 22年 2月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	餅つき大会やミニ・コンサートなどの地域交流会を開き、地域の方々に足を運んで頂いている。また、日常でも地域の行事に参加し買い物などの外出も入居者の方と同行している。	○ これからも共生・共存という言葉を理解し、入居者の力を活かし楽しみのある食事が出来るようにしたい。地域の方々と交流を持ちながら友に支え合って行きたい。フリーマーケットやバザーなどの新しいことにも取り組み、地域との関係作りのきっかけにしたい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の方々に居心地よく安心して生活を送ってもらえるように努めているが、理念について深く考える機会が少なく全職員が理念を共有しているとは言えない。	○ 理念が文章化されているが、文章の中のポイント(キーワード)を見つけ年頭に入れておきたい。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や訪問者にも理解してもらえるように玄関やホールに理念を張り出してある。重要事項説明書にも理念を掲げてあり、入居契約時にもお伝えしている。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物・ゴミ出しの時に挨拶を交わすことは多くある。近所の方から野菜を頂きに、畑へ収穫に出かけることもある。	○ グループホームに気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしていきたい。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流会を開き交流を深める機会を作っている。また、地域の行事にも積極的に参加している。	○ 自治会への加入をお願いし地域住民としての役割なども果たしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	餅つきやしめ縄など高齢者に馴染みがあり、喜んでもらえるような行事を開催し楽しんでもらっている。また、地域のグループホームと連携し地域に役立つことが出来ないかを話し合っている。	○	高齢者介護・在宅介護での問題について家族と一緒に考える会など開催出来れば在宅の方の力になれるのではないかと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価結果を元にミーティングや運営推進会議等で話し合い問題解決に取り組んでいる。	○	改善点に対しての定期的な見直しを行っていく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に1回の運営推進会議の議題は、その都度院長の指示を頂きながら優先順位をつけて内容を検討している。出席者の方の意見など取り入れていきたい内容が多くケアに生かしている。	○	2ヶ月に1回の運営推進会議は有効に運用されているので継続していきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	地域のグループホームで定期的に会議を開いているが、地域包括支援センターの方にも出席をいただき情報交換を行っている。	○	地域でのネットワーク作りを計画している。ネットワークを生かして更なる交流を深め信頼関係を作りたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在、成年後見制度を利用されている入居者がいるので一般的な知識としては理解している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待についてのマニュアルがあり、運営推進会議でも議題にして共通の理解に努めている。	○	身体的なことだけではなく、言葉の暴力などにも気をつけて職員同士で注意出来るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の窓口を管理者に絞っている。時間をかけて契約内容の確認を行い、質問などはないか確認し疑問や不安などないように十分に説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症の方は十分に伝えられず態度や表情に表れやすいので、観察を主に行っている。また、些細な会話の中で何か悩みや不満を汲み取るようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時にお伝えしている。体調不良などはこまめに電話連絡を行い、金銭に関しては定期的に御家族へ出納帳を確認してもらい、サインを頂いている。毎月利用料と同時に「ゆうかり通信」を送付したり、誕生会や家族会等を通じて密に報告している。	○ 「ゆうかり通信」は写真入で御家族からも好評なので続けて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会票に一言欄を設けているが、遠慮をされて感謝の言葉が多い。家族会や運営推進会議など御家族が出席される場で意見交換をしている。	○ 各入居者に担当職員を決めているので、今までより更に交流を深めて御家族が遠慮なく要望を言えるような関係作りをしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/1ヶ月にミーティングを行い、問題発生時は緊急のミーティングも行っている。運営者を始め上層部の方も参加する中で、意見を出し合い納得のいく討議が成されている。結果も多いに反映されている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員同士で話し合い、必要に応じて配置を厚くしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の関係は職員全員が入居者一人、一人に同等のケアをしており、離職・入職の職員が挨拶きちんと行っているため問題はないと思う。(統一ケアの実践)	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時にグループホームだけではなく、各部署への研修もあり学ぶ機会を作っている。研修は参加したいものなどあれば、自ら希望し参加している。また、外部研修への参加者は必ず伝達講習も行っている。	○	研修などは積極的に参加し常に勉強をする心構えが必要だと思う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中でグループホームの集まり「よかど会」を作った。各グループホームの方と話す機会もあり、意見交換などが出来ている。	○	グループホームはまだ地域でも認知度が低い。地域活動やネットワーク作りにより、地域との良い関係作りが出来れば良いと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年度内に歓送迎会や忘年会、バーベキュー大会、ボーリング大会などの催しが開かれている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月初めに全職員集まる全体朝礼があり、運営者の激励などがある。また、運営者は早朝出勤前や退社時にグループホームの様子を見に来ることが多く、状況を把握している。また、外部研修や講習会には積極的に参加するように呼びかけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	思いを訴えやすい雰囲気を作り対象者の話をよく傾聴している。表情や態度などからも心理状態を汲み取っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に数回面談を行うなど、御家族の思いを汲み取っている。必要があれば関係者を呼んで協力をお願いする機会をもつように努めている。(家族間の温度差を解消する為)	○	家族の声や思いを聴けるように信頼関係を深めたい。また職員全員がその情報を共有していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に大事で必要なことを話し合い、体験入所を勧めたり、他の相談機関へも問い合わせを行い情報を提供してもらっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族からの情報による性格や気性などを理解し、大勢の中にとより気の合うような方との交流を勧めている。そうしているうちに、一緒に馴染んでこられる。	○	入所前の体験入所は続けていきたい。新しい環境に戸惑う方も多いので、会話の中で不安など聞き取りケアの進め方・方向性を決めて行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験の豊富な方々だからこそ学ぶことも多いので、入居者と職員が共同で行える炊事・洗濯物干し、洗濯物たたみ・掃除など、昔の話を交えながら学んだり出来る機会になっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お互いに力が不十分ですので、無い力を出し合って支えていきたいと思いますと声を掛け、各行事の参加に呼びかけ入居者、職員共に時間を共有し、必要なことは話し合い良い方向へもっていけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	より良い関係を築く為に主介護者だけではなく、全関係者に集まって頂き話し合うこともある。	○	御家族との外出(散歩・ドライブなど)を勧め、一緒に過ごす触れ合いの時間を作ってほしい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の受け渡しや、電話の取次ぎなど行っている。受診時に病院職員との交流や、デイケアの催しへの参加、居宅支援事業所の方とのお茶会など交流を続けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれ馴染みの関係は出来ていると思うが、どなたに対しても支え合えるよう職員が間に入り声をかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気の為に他医療機関へ転院された後も適宜訪問している。また、地域交流会やコンサートなどへの参加を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の聞き取りや御家族の意見もふまえ、無理の無い生活を送れるように援助している。入居者の気持ちを大切にニーズに応えている。	○	改めて思いなどを話し辛いと思うので、日常的な会話の中からも、希望や意向を聞き出せるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや御家族からの情報を元にアセスメントを綿密に行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で申し送りを行い、個々の生活状況を理解出来るように連絡ノートに記録し、情報共有を行っている。	○	交代制勤務であることから職員の情報共有はとても大事だと思う。職員間の報告・連絡・相談を密にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者にとって最善の方法をとるためにも、家族・主治医・専門機関へ相談し方向性を決めて介護計画をたてている。	○	各入居者に担当職員を配置しており、その職員を中心に必要なことを話し合っている。今後も続けていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて本人・家族・主治医・専門機関へ相談し、本人・家族の了解の元新たに計画をたてている。	○	ADLの状態や精神状態の把握をしながら早急な計画変更をしていきたい。本人や御家族、主治医との意見交換を密にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日誌を作り毎日記録を行っている。日勤・夜勤と色別にし把握しやすいようにしてある。状態やケア方法が変わった時は、連絡ノートに記載し全員が情報を共有出来るようにしてある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物やドライブ、散歩など希望があった時はすぐに対応出来るように努力している。また定期的に行っている事項でもある。病院受診など、必要に応じて家族と同行し情報提供したり、指示を仰ぐこともある。	○	入居者・家族・事業所それぞれの立場として考えながら多機能性を生かし、必要な時に必要な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議への参加を依頼し協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問歯科や訪問理容、介護タクシーなどの利用もしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院に併設されたグループホームでもあり、入居者全員が運営者を主治医としている。朝・夕の見回りで状態変化も早期に主治医が把握している。状態により受診出来、必要に応じて往診にも来て下さる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>近くの精神・神経科の医療機関と緊密な連絡がとれており、変化のある場合は早急に受診が出来る。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医院に併設されたグループホームでもあり、看護師も入居者の状況をよく把握しており指示を受けやすい。受診や往診時にも色々と質問が出来るので心強い。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>医院に併設されたグループホームでもあり、毎朝各部署が集まり朝礼が開かれるので情報を常時共有している。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>定期的に採血や検尿、胸写レントゲンを行い病気の早期発見に努めている。必要に応じて早期に家族・主治医・管理者で情報を共有し、その時に合わせた対応をし、終末期の対応は普段のミーティングでも話題にしている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>病状により確実に進行していく症状に合わせて、グループホーム・病院で連携し主治医の指示を仰ぎながらケアを行っている。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>居室内の様子やディスプレイ、慣れ親しんでいるものなどの情報を提供し雰囲気を変えないような環境を提供している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の性格や生活歴を基に、個人の尊厳・権利を損ねることのないよう努め、個人に合わせた声掛けを行いプライバシーや誇りを守っている。	○ 左記の内容を全職員が常に念頭に置き入居者のケアを出来るように更に努力したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動の前の意思確認を心掛けている。言葉だけではなくジェスチャーや筆談も取り入れて入居者の思いを汲み取るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の状態に合わせて無理の無い生活を提供しよう心掛けている。居室やベッド、ホールなど本人の望む場所で過ごし、望む時に食事を提供し、出掛けたい時は時間を見つけて職員が付き添い気分転換を図ってもらっている。	○ 共同生活だからといって必ずしも皆と同じでなければならないことはない。入居者の判断や決定権を活かせるように職員が十分に気を配りたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回訪問理容を利用している。希望によっては御家族と美容院へ出かける方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっておらず当日当番になった職員が入居者の要望も聞きながら献立を決めるようにしている。入居者にも調理に参加してもらい、食後の洗い場の手伝いもしてもらっている。職員も入居者と同じ時間に同じテーブルで食事を摂っている。また定期的に外食に行ったり、出前をとるなど楽しみの日も作っている。	○ これからも共生・共存という言葉を理解し、入居者の力を活かし楽しみのある食事が出来るようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	焼酎やコーヒー、団子などそれぞれの嗜好品は様々なので、交替で要望を聞いている。本人が望めば適量の晩酌も可能である。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り24時間記入をしている。時間の間隔が開けばトイレへ誘導し、汚染物は交換するなど清潔に心掛け、気持ちの良い状態を保てる様に気をつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な曜日は決まっているが、入居者の意思に任せている。		入浴に対して強い要望がある方は特に居ないが、今後そのようなことがあれば柔軟ある対応に心掛けたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを把握しリズムを崩さないように注意している。朝の起床も不規則になることのないように気をつけながら、起床時間を決めずに入居者の意思に任せている。入居者の希望する時に就寝準備を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事・掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみなどの作業 散歩・外食・野菜収穫など外出を兼ねており気分転換を図っている。	○	入居者にとって役割は生きがいに繋がるものでもあるので、大小に関わらず出来ることを提案し達成感を味わってもらいたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は金銭の所持はしていない。個人のお小遣いは預かり金として管理している。	○	買い物に同行した時など支払いをしてもらい、自分で買い物をしたという実感も味わってもらいたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物など出かける機会が多くあると思う。天気の良い日にウッドデッキで食事をするなど、外の空気に触れる機会も多い。	○	事前で希望を聞いておき順番で目的地へ出掛けたい。先々の予定が決まることで入居者が楽しみを持って欲しい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ぶどう狩りやお花見など少し遠方で入居者の方が楽しめる行事を行った	○	季節に合わせて行事計画を立ててもっと出掛ける機会を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいて、電話をかけたい時など操作の手順を説明することもある。職員が返信用のハガキなど準備し、入居者がメッセージを書いた後郵便ポストに入れることもある。	○	希望者があればいつでも手紙やハガキが出せるように準備しておきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問して下さった時の挨拶や、帰られる際に「またお待ちしています」などの声掛けを心掛けている。	○	職員は業務が忙しくてもそれを訪問者に感じさせない余裕を持ち、気軽に訪問できるような雰囲気作りをしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については運営推進会議でも大きく取り上げ、身体拘束廃止マニュアルはいつでも閲覧できるところに設置してあり、定期的に見直しをしている。見守りで安全を確保する為に職員間の声掛けを徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることはない。夕方近くになり自宅のことを気にする入居者の方もいるので、屋外へ出るようなことがあれば同行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室は鍵が掛けられることから夜間鍵をかけて休む方もいる。外から簡単に鍵は開けられるので、1時間に1回の巡視は確実に行き安全・安否確認をしている。昼間は職員間で声を掛け合い所在の把握をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各入居者への居室の持ち込み物品は御家族とも話し合い決めている。状態が変わることに合わせて物品の持ち込み、配置を換えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを活用している。インシデント・アクシデント報告書を書き、1回/1ヶ月各部署合同の安全対策委員会で事故防止方法や対策を検討し、内容を全職員で見直している。	○	安全対策委員会の内容の把握を徹底する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	処置が必要になった時や入居者の体調不良・急変があった時に、その都度初期対応したことを職員間で報告し合い、またその対応について主治医や看護師に報告し、処置が正しかったのか確認し学んでいる。	○	初期対応のマニュアルを定期的に見直して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜間想定での火災訓練を年に2回行っている。防災訓練についても話題になっており、非常食の準備についても検討している。	○	日中共に夜間も医院当番看護師と常時連携がとれる。近所の方とより良い関係を作りながら、火災訓練などにも参加を呼びかけ災害時の協力を依頼したい。地震、水害、桜島爆発の訓練を行っていないので、早急に話し合っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状態変化に応じて、何故リスクが高いのか、リスク管理が必要なのかを御家族に説明し理解を得る努力をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い異常があるときは、主治医へ報告し時間おきのチェックをしている。必要に応じて外来受診・往診など行い状態と指示を職員間で報告・引継ぎをしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者個人の薬の一覧表を作り職員が確認出来るようにしている。体調の変化で薬が変わったり、増減した時は一覧表の変更、職員間への報告を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	確実な水分補給、食事に関しては乳製品、繊維食品など排便促進作用のある食品を多く使用し調理を行っている。また、排便チェック表を利用し個人の状態を把握している。	○	排便を促す体操など取り入れて行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは1対1で付き添い出来ることをしてもらった後手直しとして残菌の菌間を磨いたり、舌ブラシなど不十分な部分をケアしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各入居者の食事チェックを毎日・毎食行い個人の状態に合わせて量で配膳されている。また、食事に応じて刻み食や、ペースト食、トロミをつけるなど食べやすく工夫している。水分は1日最低約1300CCは飲んでもらうようにしている。</p>	○	<p>治療食で特に糖尿病、高血圧のある方に配慮出来るような食事内容を更に学んでいきたい。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルに沿って行っており、感染者が出た場合は主治医の指示により居室で過ごしてもらい、集団感染を起こさないように注意している。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材のまとめ買いをせずに少しずつ購入し、賞味期限に注意しながら調理を行っている。シンクを1日の最後に毎日掃除し、調理用具・トレーなども食器乾燥機で殺菌している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>				
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関入り口にはスロープ・手すりが付いており安全確保を目的としている。玄関先には花を植えるなど明るい雰囲気を出せるようにしている。</p>	○	<p>近隣の方へのアプローチが弱いので、地域のネットワークを通じてグループホームを更に知ってもらえるよう努力していきたい。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールの天井が高く陽射しもよく入り日当たりも良いので明るい作りになっている。季節に合わせて花を飾るようにしており、入居者に季節を感じてもらっている。ホールにトイレの入り口があるので、ドアの開閉に気をつけ悪臭が無いように気をつけている。</p>	○	<p>入居者の立場となり職員一人一人が「もし私の家なら。」という気持ちで居心地の良い空間作りをしていきたい。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室は個室になっており、危険物以外の好みの物は何でも持ち込めるようになっている。テーブル掛けの椅子やソファ、畳とそれぞれに十分な広さ、空間があるので入居者の意思に合わせて過ごしてもらっている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「自分の家」という感覚で自分なりの個性ある居室にしてもらえるように入居者・御家族にお願いしてある。馴染みのあるものや使い慣れた物を特に制限無く持ち込んで頂いている。	○	リスク管理を行いながらなるべく本人の意思を尊重して安らげる空間、居室を作り上げていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ・各居室には換気扇があり臭いがこもらないようにしている。ホーム内は温度差がないように空調を利用し、乾燥防止でホールに見苦しくない程度に洗濯物を干している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーで段差がなく浴室・トイレ・洗面所など、必要なところに必要な手すりが設置してあり安全性を保ちながら自立支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	炊事・洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除などしてもらい、不十分な部分は職員が手助けしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはウッドデッキとなっており、天気の良い日は日光浴がてらテーブルを持ち出し食事をしたり、お茶を飲んだり余暇の時間を過ごしている。気候の良い時期は畑仕事や草むしりも一緒に行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホール内は天井が高く、時期を問わずに陽が入りやすく明るい雰囲気です。居室も広々としており個室としては十分な空間が保てています。入居者が安心して生活出来るように日々の状態を把握し、必要があれば同敷地内の医院へ受診が出来ますし、状態により主治医が往診にも来て下さるので、入居者・御家族共に安心して居られる方が多いと思います。入居者へは個別援助・残存機能を生かした自立支援を重視し安全面の配慮や清潔保持に気を付けています。明るく楽しい雰囲気を造るためにも職員の和を大事にしています。食事は見て楽しみ、食べて美味しく舌鼓をうつようなメニューを日々提供しています。職員全員が自分の大事な方を入所させたいと思えるようなホーム作りを目指しています。